

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

遼寧省檔案館 編

QILIN NORMAL UNIVERSITY PRESS
齊齊哈爾大學出版社



滿鐵調查報告

第四輯

7

滿鐵調查報告

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

第四輯

7

遼寧省檔案館 編

GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
广西师范大学出版社

· 桂林 ·



昭和五年十二月十日印刷
昭和五年十二月十五日發行

定價 金壹圓

南滿洲鐵道株式會社總務部調查課

編輯兼發行者

佐田弘治郎

大連市大山通六十三番地

印刷者 太田信三

大連市大山通六十三番地

印刷所 小林又七支店

發行所 南滿洲鐵道株式會社

大連市紀伊町九十一番地

發賣所

社団法人 中日文化協會

作為商品的滿洲稻米

滿鐵庶務部調查課	一九二七年六月	1
----------	---------	---

滿鐵調查資料第一百〇一編 大連附近諸港（營口、天津、芝罘、秦皇島、青島）背後地向歐美輸出商品情況

滿鐵庶務部調查課	一九二九年五月	89
----------	---------	----

滿鐵調查資料第九十二編 滿洲物價調查

滿鐵庶務部調查課	一九二九年一月	285
----------	---------	-----

滿鐵調查資料第一百四十三編 北滿地方特產物的交易及核算

滿鐵總務部調查課	一九三〇年十二月	461
----------	----------	-----



作爲商品的滿洲稻米

パンフレット第三十四號

商品としての滿洲米

南滿洲鐵道株式會社

庶務部調査課

序

本調査は商品としての滿洲米に主眼點を置き沿線各地商業會議所竝に直接當業者に就いて獲たる資料、見聞せる事實を取纏めたものであつて、各種統計の蒐録と趨勢の沿革的敘述に努めた積りであるが、材料數字の蒐集に意外の困難があつた爲め未だ盡さざるもの或は正確を保し難き點あるを免れない。只管江湖の批判と叱咤は俟て後日の補正を期する所以である。

本書の編輯に就ては奉天萩原昌彦氏に負ふ處頗る多く爰に深甚なる感謝の意を表するものである。

擔當者 大西健吉

昭和二年四月

庶務部調査課

目次

第一章	概説	一
第二章	種類	二
第一節	稻種名による區別	二
第二節	水稻及陸稻米	四
第三章	品質	五
第一節	品質試驗成績	五
第二節	米穀検査機關	九
	一、米穀検査規則拔萃	
	二、米穀検査成績	
第四章	精米業	一五
第一節	精米業の沿革	一五
第二節	精米狀況	一五
目次		

目次

二

第三節 粃の歩留	一七
----------	----

第四節 精米の諸費用	一七
------------	----

第五章 滿洲米の生産額	二〇
-------------	----

第六章 滿洲に於ける米の需給	二四
----------------	----

第一節 滿洲米需給の沿革	二四
--------------	----

第二節 滿洲米の消費	二六
------------	----

第三節 輸移出	二七
---------	----

一、輸出と護照料 二、特種輸出の方法 三、正式輸出と特殊輸出の差違 四、正式輸出
 狀況 五、特殊輸出狀況

第四節 米の輸移入狀況	三七
-------------	----

第七章 滿洲に於ける米の取引と集散狀況	四〇
---------------------	----

第一節 取引	四〇
--------	----

一、市場外取引(鮮人の取引慣例) 二、支那市場(支那市場取引慣例) 三、滿洲取引所
 四、取引單位 五、取引の貨幣

第二節 出廻狀況	五一
----------	----

第三節 相場

場

六一

一、驛別出廻 二、月別出廻 三、昨年度に於ける滿洲米消長

一、滿洲米價移動の大勢 二、滿洲主要地の米價 三、各等級の値開 四、滿鮮米の値開
五、内地相場との比較 六、安東及新義州米相場比較

第八章 滿洲米の將來

七一

附 錄

一、内地に於ける米作付反別及收穫高表

二、大正十五年度に於ける全國縣別生産高

三、内地に於ける米及粳輸入高累年表

四、朝鮮及臺灣水陸稻收穫高年度別表

五、支那に於ける米の生産高

六、米穀關稅移出入の沿革

目 次

三

商品としての滿洲米

第一章 概 說

滿洲米作の勃興は移住鮮人の力に負ふ所甚だ大である。由來移住支那農民は畑作を以て其の生命とせるため水稻作を試みるものなく、且つ水田勞働を嫌忌する風習があつたが、近來支那農民中水田經營の有利なるを知り、之に従事するもの年々増加の傾向を示して居る。而して一面在滿邦人の増加と共に鐵道沿線及び背後地の開發に伴ひ滿鐵及關東廳の米作指導獎勵と相俟つて、今や滿洲米年產額二百萬石(粳)を算するに至り、其の品質に於て邦人の常食米として日本米及朝鮮米に比し大なる遜色を認めざるまでに至つたのである。

今日米作が斯く滿洲に於て發達せる所以のものは、蓋し自然的及び經濟的諸條件が水田經營に好影響をもたらせる結果と云はなければならぬ。即ち滿洲の位置を見るに、長春及吉林は彼の内地に於て米產地として知らるゝ北海道旭川地方と同緯度に在り、奉天地方は函館に匹敵し、熊岳城及安東地方は秋田と同緯度に當り其の地理的地位に於て米作不能の地なく、殊に其の天候は大陸的であつて日中の氣溫上昇するも蒸熱を催すことなく、日照時數の多き爲め作物の發育極めて良好なるのみならず、内地に見るが如き稻の開花期に於ける暴風雨の被害も少なくして稔實を妨げらるゝ憂ひなく、地價の低廉、勞銀の安き事或は他の農作物の價格より米價の高價なること等一般に有利の條件を備へ

て居る點である。

されば産額の増加を計るには水利工事により灌漑排水の便を計ると共に、耕地の開拓及改良事業の指導をなし、米質改善の爲めには優良品種の選定をなし之が普及に力め、一方米穀検査を徹底せしめ取引上の利便を促進する等生産と取引の兩方面に於て之が指導と奨励との宜しきを得れば、滿洲に於ける重要農産物としての滿洲米の聲價は愈々向上するであらう。

第二章 種類

滿洲各地に於ける米の品種は從來移住朝鮮人、在滿邦人等の手によりて何等氣候、土質等に對する適不適の考慮なく漫然と移入栽培せられ従つて其品種も雜然たるを免れなかつたが、近來漸く合理化せられ統一化せられ各品種に就いて謂はゞ品種帶とも云ふべきものが形成せられるに至り、概を一見して其産地の何れなるやを判定し得る迄に進んで來た。此等品質は在來種及日本種に二大別する事が出来る。

第一節 稻種名による區別

(イ) 在來種 在來種とは滿洲に於ける水田開發後鮮人に依り輸入栽培されたもので、近年内地より移入せられた日

本種と區別する稱呼である。在來種の主なる品種名及反當收量は次の如くである。

在來種の主なる品種名及其の反當收量

品 種 名	取 寄 先	反當玄米收量	試 験 地	摘 要
紅 光 頭 兒 朝	朝鮮	二・一二五 ^石	熊岳城農事試験場	
京 租 朝 鮮 平 安 北 道	朝鮮 平安北道	一・四四〇	奉天地方事務所採種場	
大 邱 租 朝 鮮 平 安 北 道	朝鮮 平安北道	一・六〇七 ^同	上	

(ロ) 日本種 日本種は主として日本内地より滿鐵及在滿邦人に依つて輸入せられたもので、各地に栽培せられて居る。

熊岳城農事試験場に於て試作の結果、滿洲の風土に好適なる品種と認むべきものは次の如きものである。

日本種の滿洲に適するもの及其の反當收量

品 種 名	取 寄 先	反當玄米收量	試 験 地	摘 要
早生大野 四九號	山 形 縣	三・〇九八 ^石	熊岳城農事試験場	大正十四年前に於ける平均
龜ノ尾 一二號	山 形 縣	二・八一〇 ^同	上	
大 租 關 東 農 事 試 験 場	も 原 産 地 は 東 北 地 方	二・六〇八 ^同	上	
信 州 金 子 茨 城 縣		二・五六五 ^同	上	

第二章 種類

衣笠	小笠	札
田	嶋	赤
笠	代	毛
高	背	北
知	森	海
縣	縣	道
一・七七三	一・八〇〇	一・七〇〇
奉天地方事務所採種場	大榆樹採種場	同上

四

各品種の分布狀況 内地種の中最も滿洲に普及して居るものは次の如くである。

信州 金子

關東州内地方

早生大野四九號(一名大原)

松樹、熊岳城地方

龜ノ尾一二二號(一名萬年)

松樹熊岳城地方

衣笠(白光頭兒)

鐵嶺、開原以北地方

小田代

公主嶺、吉林地方

札幌 赤毛

吉林、蒙古、東支沿線地方

第二節 水稻米、陸稻米

滿洲に於ては陸稻米(旱粳子)は水稻米(水粳子)より遙に多く作付せられ、當課に於て支那側及邦人當事者の報告に基き調査せし所によれば、大正十五年度陸稻作付面積一一八、六二〇町歩、水稻一一一、七三〇町歩にして過去三箇年に於ける兩者の作付面積の比較を表示すれば左表の如くであるが、商品として滿洲米と稱せられるものは普通水稻米であつて陸稻米の大部分は産地にて消費せられ商品としての出廻は多くない。

水稻陸稻作付面積及收穫高比較 (年度別)

年次	大正十三年		大正十四年		大正十五年	
	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高
水稻	五七五、三〇〇反	九七五、一〇〇石	九三八、七〇〇反	二、〇〇一、六〇〇石	一、一七、三〇〇反	一、八七、七八〇石
陸稻	七八七、九〇〇	一、〇〇三、二〇〇	一、〇九一、四〇〇	一、七二三、四〇〇	一、一八六、二〇〇	一、五二七、一〇〇

備考 表中收穫高は其の年の豫想收量を示す。

第三章 品質

第一節 品質試験成績

滿洲米の品質に就ては從來種々の非難があつた。茲に於て滿鐵及關東廳の當局は銳意品種の改良に當り一面民間米穀當業者が調製の改善に力めたる結果、今日の滿洲米は從來の滿洲米に比し面目を一新するに至つた。加ふるに最近全滿米穀同業組合は米穀検査規定を設けて其の實施を見るに至り、内には米質改善の諸施設を刺戟して一層其の効果を擧げしめ、外には滿洲米の品位を保證して商取引の安全を保證する事となつた。

滿洲米には普通取引せられるものゝみで十種に近き種別があり、而して各其の特長を有して居るが今之等數種に付
き滿鐵熊岳城農事試驗場に於て實驗した結果を左に掲げる。

代表的滿洲產米調査表

項 目	品 種 名	色	北 部 產			中 部 產			南 部 產		
			赤毛帆	同上	同上	京租	同上	衣笠	大早野	龜ノ尾	赤頭兒
稈 色	一 升 重 量	厚 度	皮 粒 重	千 粒 重	容 量	重 量	容 量	重 量	容 量	重 量	容 量
黄帶赤	二二八	mm	二二八	二二八	四六	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
白赤	二二八	mm	二二八	二二八	四六	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
同	二二八	mm	二二八	二二八	四六	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
同	二二八	mm	二二八	二二八	四六	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
淡黄褐	二二八	mm	二二八	二二八	四六	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
同	二二八	mm	二二八	二二八	四六	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
黄白	二二八	mm	二二八	二二八	四六	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
同	二二八	mm	二二八	二二八	四六	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
同	二二八	mm	二二八	二二八	四六	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
赤褐	二二八	mm	二二八	二二八	四六	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
稍紫	二二八	mm	二二八	二二八	四六	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八